国際農業工学レポート

（1） 農業農村整備事業における建設コンサルタントの役割について

前回の講義でNTCコンサルタンツ株式会社の代表取締役社長である大村仁さんから建設コンサルタントの仕事概要について説明を受けた。ここでは大村さんの話も盛り込みつつ記述しようと思う。

まず農業農村設備、および建設コンサルタントの用語を説明する。

・農業農村整備とは（以下、農林水産省のhpの記述を抜粋）

『農業農村整備は、この水と土を相手に、自然との共生を図りながら営まれている農業を支援するため、水田で必要な農業用水を確保するためのダムや堰の建設、営農条件を改善するための水田、畑の整備、農産物などを運搬するための農業用道路の整備、農村の環境整備などを行っている事業の総称です。』

具体的には愛知用水の施設が有名な例としてあげられる。

・建設コンサルタントとは（以下、NTCコンサルタンツのhpの記述を抜粋）

『建設コンサルタントは、土木技術を中心とした開発・防災・環境保護などのプロジェクトについて、企画・立案、調査、設計、施工管理などの一連の技術サービスを提供する技術士等の専門家、あるいはその専門家の集団です。』

具体的にはNTCコンサルタンツ株式会社がそうである。

それでは農業農村整備における建設コンサルタントの役割はなにか記述しよう。大村さんが「福島の復興作業での我々の功績はほとんど福島の人々に認知されていない」と言ったように建設コンサルタントは「目立たない」仕事である。というのも、建設コンサルタントでは何か物質的なものを取り扱うのではなく、農業農村設備における調査や設計といったデータを取り扱うのである。

戦後の復興期における建設コンサルタントの主な役割は、官公庁が行ってきた調査や設計などの一部を補助的に行うことだった。 しかし、高度成長に伴い各種プロジェクトが飛躍的に増えて、国や地方自治体は、プロジェクトの執行に必要な調査および設計の大半を建設コンサルタントに任せるようになった。 現在では、官公庁など発注者のパートナーとして、発注者に積極的に調査や設計について技術提案をしていくことが、建設コンサルタントに求められているのだ。こうした状況のもと、農業農村設備における建設コンサルタントの役割（として求められているの）は、**「ライフサイクルコストを最も安く、また使用価値を最も高めるような企画や設計を、専門的な高い技術力と第三者としての公平な立場から提案すること」**である。

（2）　講義で最も印象に残ったキーワード

講義で最も印象に残ったキーワードは「人と人との繋がり」ということである。

講義で大村さんは自分の経歴を話さず淡々と建設コンサルタントの話をしていて、大村さんの謙虚な性格を私はひしひしと感じていた。そう感じていたため、溝口さんが「大村さんの人脈の広いおかげで東大のハチ公の像が建ったんだよ」と言ったことに対して大村さんが照れて少し誇らしげにしていたことに対して違和感を覚えた。そしてハチ公像の建造における自分の功績、また「人と人との繋がり」のことについて熱く語っている大村さんに、私は次第に引き込まれていった。この繋がりこそ大村さんが自信を持って誇っているものであり、仕事のやりがいと感じているのではないだろうか、と私は思う。共通の仕事を成し遂げることで得られる相手への尊敬、信頼。それを口にする大村さんはかっこよく、自分もそのように語れるようになりたいと感じた。

参考資料

農林水産省hp

http://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/nn/

NTCコンサルタンツ株式会社hp

http://www.ntc-c.co.jp/g1_01.html